

〔派 遣〕

派遣研究者	東京工業大学大学院 理工学研究科 准教授 葭田 貴子	2032105
研究集会名	2013 Psychonomic Society Annual Meeting	
出張期間	2013年11月13日～11月18日	
開催場所	カナダ トロント	
発表論文	The Contribution of Efferent Copy to a Mirror Illusion Mirror Illusion に対する遠心性コピーの寄与	

概 要：

カナダのトロントで開催された Psychonomic Society 2013 Annual Meeting に参加した。投稿数 1,264 件、北米地域の認知科学や知覚科学の学会としては比較的大規模な学会であるが、参加者は北米に限らず世界各地から集まっている。このほか、毎年この学会開催に合わせて複数のサテライト集会在併設されており、触覚に関する研究者による Tactile research group, 若手を中心とした注意や記憶, 物体認識に特化した学会 OPAM (Annual Meeting on Object Perception, Attention, and Memory) などが筆者の近接領域では活発である。発表に関しては、身体の中線に沿って設置した鏡の鏡面側を覗き込み、両手を同時に動かすと、手の鏡映像が視覚的捕捉を起こし、鏡の裏側に隠れた実際の手が鏡映像の位置から離れていても鏡映像の位置にあると感じられる Mirror Illusion という現象がある。この現象の生起メカニズムを知る目的で、振動により指が実際に運動しなくても動いた感覚を受動的に生じさせる錯覚を用いて (Mizuno, et al., 2010), 指の運動に対する遠心性コピーがない状態でも Mirror Illusion が生じるかどうかを検討した。Mirror Illusion が生じる領域を鏡面の 2 次元平面で記録し、その面積を条件間で比較した結果、遠心性コピーがなくても指が動いた感覚がある条件は、通常の Mirror Illusion の条件と有意差がない面積の視覚的捕捉が示された。この結果は、agency や ownership といった自己の身体感覚を説明するモデルに対して、従来仮定されている遠心性コピーと感覚フィードバックの時空間的情報の同期では説明できないことから、自己と他者の身体を区別する脳の理論との関係でさらなる検討が必要と思われる。また、この現象や原理を利用することで、あたかも自分自身の身体を操っているかのような操作性を有する機械システムを設計する原理をどのように提供するのが次の目標である。